

新校舎起工式について

天使大学 事務局長 岩間 久哉



起工式開式の辞

2017年12月に「創立70周年記念式典」を開催してから1年3月が過ぎました。

70周年記念事業の一環として大学開学20周年となる2020年度の供用開始に向けて、昨年12月に起工式が行われ、念願の新校舎の建設工事が始まりました。

起工式は、12月14日に建設予定地の体育館跡地の会場で、学園役員、教職員、学生代表、シスター、施工業者等の参加のもと、司祭によりカトリックの典礼に則り厳かに実施されました。

外では雪が降る天気の中、会場のテント内では、聖歌に始まり、工事の安全を祈願し最後は全員で校歌を合唱して滞りなく起工式を終了することができました。

解体される体育館を惜しみ戴帽式及びフードアンドライフステップアップセレモニーを前倒して実施したほか、長年学生達に親しまれてきたマリアホールのお別れ会が実施されました。

新校舎は、本学の持続的発展のために教育環境の充実や学生生活を支えるキャンパス整備を目指すもので、その概要は地上6階建てで、食堂・カフェ、学生の交流、自習等の拠点となるラーニングcommons、図書館、大講義室、看護実習室、栄養の各実験室、体育館兼講堂を整備する計画となっています。



新棟イメージ図

また、昨年3月に70周年記念事業の一環として

実施された「天使学園のルーツを辿る旅」(学報天使第25号で報告)を通じて参加者からは教会や修道院等を間近に見学する機会を得て、カトリックらしさを象徴するデザインや中庭回廊型など新校舎整備への着想が得られたと伺っています。

今年の卒業式と入学式は市内ホテルでの実施ですが、来年の卒業式及び入学式は待望の新校舎体育館で実施できますので、皆様とともに完成を楽しみにしたいと思います。



近藤理事長によるくわ入れ

専門職への決意の式典

本学は、毎年2年次生が専門職へ決意を新たにする式典として、看護学科は、「戴帽式」、栄養学科は、「Food and Life Step-up Ceremony」を行っています。

今年度は、新校舎建設工事の関係で戴帽式は、2018年9月26日（水）、Food and Life Step-up Ceremonyを2018年9月28日（金）に本学体育館で行ないました。

ここでは、各学科の2年次生に参加した感想を聴いてみました。

戴帽式に参加して ～式を行う意味について感じたこと～



看護学科2年

加藤 優里

他の看護大学・専門学校では戴帽式を行わないところも多い中で、あえて天使大学が戴帽式を行っている意味について、一年次生の時はあまり理解できていませんでした。しかし、今回自分が戴帽生として参加して、戴帽式には気持ちを引き締めなおすのにとっても重要な意味を持つものだと感じました。大学に入学したての頃は、

地元を離れての一人暮らしや新しい仲間、高校の授業とは異なる講義のスタイルなどに戸惑いや緊張の連続でした。しかし二年生に進級し、学校生活にも一人暮らしにも慣れてきて、テストや演習、予習復習にアルバイトと忙しい毎日を送っているうちに自分が大学に入学した本来の目的を見失ってしまいがちになります。私も、「良い成績を取るため」「先生に怒られないようにするため」ということばかり気を取られてしま

い、積極的に学ぶ姿勢を失ってしまいました。そのような時期に、自分たちで誓いの言葉を考えて準備をし、先生方や先輩方もナースキャップを身に着けて参加する戴帽式でナースキャップを頂くことで「患者さんに良い看護を提供するため」という本来の目的を再認識し、そのために常に学び続けることを決意し直すことができました。また、実は私の母も天使大学が短期大学だったころの卒業生だったので、体育館が取り壊される前に母と同じ場所で母の前で母と同じ道を歩む決意を示せたことをとても嬉しく思いました。この戴帽式で感じた感動や決意をこれからの学校生活でも、就職してからも忘れることなく、患者さんに良い看護を提供するために学び続けたいと思います。



4年次生にキャップを留めてもらい伝統を受け継ぐ

「ステップアップセレモニーに参加して」

～Food and Life Step-up Ceremony “Going back to the source”～



栄養学科2年

佐藤 かりん

天使大学の入学式に臨んでから既に2年が経とうとしています。徐々に学生生活にも慣れ、日々の生活をただ平然と過ごしていました。そんな中行われたこのステップアップセレモニーでは、先輩からロウソクを受け取った時や暗闇の中に灯るろうそくの炎を見た時、自分の名前が呼ばれ壇上した時など、今までの自分を振り返る機会

が多くありました。例えば、この大学へ入学するために行ってきた努力、目指す管理栄養士の理想像、一人暮らしをするまで気づけなかった親からの支援、私たちに熱意を持って日頃接して下さる学校関係者の方々、実習や私生活で頼りにな

る仲間の存在などです。様々なことを当たり前と感じがちで、学ぶ姿勢や感謝の気持ちを忘れることが多かったです。改めて、このセレモニーは管理栄養士を目指す自分自身の原点を見つめなおす良い機会だと思いました。私は式典を通して、人や社会に貢献できる管理栄養士になる決意を新たにしました。3年次では、初めての学外実習が始まりますが、新たな気持ちで取り組んでいきたいです。また、新校舎建設に伴い現在の体育館で行える最後のセレモニーとなりました。授業や行事で使用したこの体育館で最後のセレモニーに参加出来てよかったです。



ロウソクの灯をとおして伝統を受け継ぐ

「オープンキャンパスを通して」

本学では、毎年3回オープンキャンパスを行っています。

オープンキャンパスは、参加者のために行うものと思われがちですが、実は在学生在が自分自身や環境を客観的に考え、第三者にお話しさせていただく良い機会であり、成長の機会なのです。

今回は、オープンキャンパスで在學生と受験生の交流ができる「交流コーナー」に参加した1年次生に感想を聴いてみました。

～より良い自分を高めるために～



看護学科1年

東山 楓

昨年の9月、看護学科1年次生としてオープンキャンパスに参加しました。

2年前、高校生だった私は天使大学はどんな雰囲気なのか、どんな先輩達がいるところなのかと期待に胸を膨らませながらオープンキャンパスに参加していました。

ですが今回は天使大学の1人の看護学生として、今度は相談に乗る立場となってオープンキャンパスに参加していることは私にとって非常に新鮮でした。

交流コーナーでは相談役として、私自身の経験について後輩達に話すこととなり、最初は期待に添えるようなアドバイスをすることができるかと不安でいっぱいでした。

しかし、天使大学に入学してから今までの充実した学校生活についてお話しすることは難しくなく、とても楽しく充実し

た時間を過ごすことができました。

天使大学での学校生活について高校生の方々とお話をする中で、70年以上もの歴史を持つ天使大学だか

らこそなし得る安心の教育、先生方の学生に寄り添う指導、また少人数制だからこそ生まれる学科を問わない仲の良さというのは天使大学の魅力であると改めて考えさせられました。

この恵まれた環境を無駄にすることのないようにたくさんこのことに挑戦し、自分自身の将来の可能性を広げていきたいと思いました。

このオープンキャンパスは私にとって、天使大学に入学して良かったと心から実感することのできた、そして自分自身をより良く高めていくためのきっかけとなった1日となりました。



参加者に授業内容を説明

～先輩から受けた恩を今度は私が返したい～



栄養学科1年

小野寺 里菜

私は9月に行われたオープンキャンパス（以下OC）スタッフのお手伝いをさせていただきました。私自身天使大学のOCは中学生のころから8回、他の大学のOCも合計すると25回参加しており、その体験で感じたことを自分も大学生になったら活かしたいと密かに夢を見ていたので、今回実現することができとても嬉しかったです。

沢山OCに参加した理由の1つに、「個人相談での収穫の違い」がありました。パンフレットより深い実際の生の声が聞けたり、出身校の先輩に会えたりと、その回ごとに収穫できる情報の違いから個人相談の重要性を知りました。また、個人相談を通して天使大学の学生さんや先生方の丁寧で良い雰囲気を感じ、私も将来こんなカウンセリングのできる管理栄養士になりたいと大学を志願した理由の1つに繋がる体験でもありました。

昨年までOCに参加して収穫した天使大学の校風を今度は私が高校生へ伝えるのだと思うと、今回のOCはとても楽しみでした。うまく話せるか不安はありましたが、事前に「隠さずありのままを話して良いよ」と声をかけていただき、先輩方にも助けてもらいながら個人相談で対応することができました。昨年を思い出して自分が聞きたかったことを話したり、受験期の資料を持参すれば良かったと反省したり、私自身も学ぶことのできた時間でした。足りなかった部分や、先輩から学んだことを、次回もお手伝いさせていただけた際に活かしていきたいと思えます。

また、今回OCを通して自分自身も将来への初心を思い出すきっかけとなり、普段の授業や体験を大切にしようとして再認識できる出来事でもありました。貴重な経験ができ感謝しています。ありがとうございました。



先輩と一緒に参加者と交流

北海道胆振東部地震

2018年9月6日3:07頃、北海道胆振地方中東部を震源とする最大震度7の地震が発生し、震源地付近の厚真町で多くの死者が出ました。また、周辺の安平町、むかわ町などでも家屋が多く倒壊し、札幌市東区や清田区などでも液状化現象による道路寸断、家屋倒壊がありました。

更に北海道内が一斉停電となるブラックアウトが発生し、約48時間電気が使えない状態となり、本学では、9月6日の講義・実習を中止し、翌日には、本学でも水の支給やスマートフォン等を充電できる環境を整え、学生に提供しました。

このような大きな爪痕を残した北海道胆振東部地震ですが、栄養学科助手竹中祐佳里先生による日本栄養士会災害支援チーム（JDA-DAT：The Japan Dietetic Association-Disaster Assistance Team）の活動、実家がむかわ町の学生が感じたこと、震災直後にボランティアに行った学生の活動について話が聴けました。



本学での飲料水、充電環境提供状況

管理栄養士として被災地で感じたこと～避難所での食事提供の難しさ～



栄養学科 助手

竹中 祐佳里

9月13日、14日の2日間、日本栄養士会災害支援チームの車両を借り、本学を拠点に厚真町、安平町における栄養調査や栄養相談、傷病者向け食品の提供を行いました。

避難所ごとの栄養調査では、1日目に厚真町、2日目に安平町で実施しました。厚真町の医療救護保健調整本部では自衛隊による炊き出しが行われており、避難所内では飲み物やカップ麺、缶詰、菓子類が置かれ、住民が自由に受け取ることができました。2日目に栄養調査を行った安平町の避難所では、地域の婦人会が交代制で炊き出しを行っていました。避難所に届く支援物資のなかから食材を選び、地域の住民へ食事を提供していました。近隣のスーパーでは依然として物流が滞り、生鮮食品や日用品が品薄のため、食事は炊き出しや支援物資に頼るしかない状況でした。

栄養相談では、ご本人、担当の医師・保健師から依頼を受け、本人の元へ伺いました。相談の多くは「炊き出しで提供される食事を食べ

ることができず、何を食べて良いのかわからない」という内容でした。炊き出しでは健康な人が食べる常食が提供されますが、これらを食べることができない高齢者や乳幼児、疾患やアレルギーがある方もいました。添加物アレルギーのため、避難所の食事が食べられないという方には大豆缶のような素材缶や無添加のベビーフードの提供を行い、支援物資のなかから食品を選択できるよう、情報提供を行いました。自動車1台分に積み込める食品には限りがあり、ただ食品を手渡すだけではなく、対象者が今後の生活に役立てていけるような支援が必要でした。

避難所で生活する皆さんの栄養状況を把握するのは難しいですが、支援を必要としている対象者にスポットをあて、そのひとに必要な支援を行うことが重要であると思いました。そのためには管理栄養士のみならず、医師、看護師、保健師などさまざまな職種との連携は不可欠でした。本当に支援が必要なひとのニーズに寄り添うことができているのか。管理栄養士としてこの場でなにができるのか。改めて考えなおす機会となりました。



日本に1台しかないJDA-DAT号(本学駐車場)

「看護職として向き合う北海道胆振東部地震」～一瞬にして変わった街並み～



看護学科4年

西 玲美

私は、今回の地震で大きな被害を受けた地域の1つであるむかわ町で生まれ育ちました。

地震当日は、札幌にいましたが、テレビなどを見ると実家がある地域が震源地でしたので、すぐ連絡を取りました。幸い、家族に怪我などないことがわかったのですが、当時の様子の話を聴くと「地震の発生した午前3時頃は、強い揺れを感じベットから飛び起きた。家電家具は音をたてて倒れて壊れてしまった。」ということでした。

また、両親はむかわ町役場で働いていますので、地震後は、避難所の運営や余震への対策、報道陣への対応など、初めての出来事に恐怖や見通しのつかない現実と直面し、不安に苛まれたと言います。

ただし、今回の地震で幸いだった事は、地震発生が明け方だったために多くの人が寝ており、火災や怪我をした方が比較的少なかったことや本格的な冬の前でしたので、避難所でも寒さに凍えることがなかったことだと言います。

地震後、実家に帰りましたが、街並みは変わっており、見慣れた建

物は崩壊し、数か月経った今も通行不可になっている道路もあります。

私は今回の地震を体験して、このような災害時に看護職を志す私たち学生でも何かできることはないのかということや、もしも厳冬期にこのような地震が発生したならば、火災や寒さによる被害がより大きなものとなるのではないかと考えました。

また、北海道の人々も今回の災害を体験したことでたくさんの人々が様々な思いを巡らせたと思います。

災害はいつ起こるか分かりません。そのため私は看護学生として北海道胆振東部地震をしっかりと心に留め、災害の恐ろしさやそれに直面した人々の心身の苦しみに目を向けて、適切な看護や支援を行うことができるように、さらには被災した地域の方に寄り添う学びを深めていかなくてはならないとあらためて考えさせられました。

どうか震災のことを忘れず、自分たちに何ができるのかを共に考えていただきたいなと感じました。



倒壊の様子(本人家族提供)



倒れた墓石(本人家族提供)

震災ボランティアを経験して

～苦い経験から学んだこと～



栄養学科2年

齋藤 小春

私は、9月24日、11月17日の2度にわたり、北海道胆振東部地震の被害が多かった安平町に訪問し、炊き出しをするボランティアに参加させていただきました。内容としては、1回目に実際に早来町民センターに避難されている方々約200人に昼食を提供し、2回目は安平町復興祈願イベントの1ブースに天使大学からカラフルお汁粉を提供させていただきました。

1回目の訪問の際には、2年次生はまだ給食経営管理論実習を経験していないこと、2年次生5名、1年次生1名と人数が少ない状態

であること、一度も行ったことない調理環境への適応力、行動力のなさなどが明確となり、支援として送られてきた食材を無駄にってしまうという苦い経験をしました。

この悔しい経験を活かし、2回目の訪問の



カラフルおしるこ

際には学生の人数を集め、大量調理の実習での学びを最大限に発揮し、メンバー全員が、被災された方々を、食を通して元気づきたいという思いを合わせ、全



ボランティア現場で

力でその時にできる行動をした結果、作ったお汁粉は全部その場にいた方々に提供することができました。

私たちは、このボランティアに参加することで、管理栄養士になるにあたり、様々なものを感じ、考え、行動することの重要性を学びました。また、当たり前が当たり前ではなく、物があることも大切な人がそばにいることも感謝しながら生活することの大切さに気付くことができました。

さらに、苦しいことや辛いことがあったときに、癒しや助けとなるのは人の心や行動であることも学びました。

今回の経験をこれからの勉学や実習で生かし、学んだことを今後このような機会があったときには、実践していきたいと思っています。

～実習内容を先取りして経験させていただきました～



栄養学科1年

吉野 隼永

このボランティアに参加するきっかけは、先輩がボランティアを募集していたことと、ブラックアウトを経験し、被災地を直接自分の目で見てみたいという思いでした。先輩の繋がりで安平町のボランティアに2度行かせていただき、1度目は被災者の方に向けた大量調理を、2度目は支給品の配布の手伝いをしました。

ここでは、集団調理の日のことを書かせて頂きます。

調理内容は、主に小さい子向けで、災害時に欠乏しやすいビタミンや食物繊維を多く取れるような献立を考えました。食物アレルギーが乳、



混ぜ込みご飯おにぎり

卵、そば、えび、かに、ナッツと、多く該当していて献立を考えるのはとても大変でしたが、先輩方と協力しなんとか目的通り栄養価の高い献立を考え、混ぜ込みご飯おにぎり、ロールキャベツ、豚汁、わかめときゅうりの酢の物の4品を作ることになり

ましたが。実際の調理現場では、人数不足と時間不足で4品全てを作ることができず、わかめときゅうりの酢の物を作ることができませんでした。さらに炊飯器の調子が悪くご飯が炊けないアクシデントもあり、思うように作業が進みませんでした。しかし、ボランティアのリーダーが「失敗も経験だ」と言い、いろいろ話を聞かせてもらいました。リーダーはこの時間で全て作るのは無理だとわかってはいたけど、あえてそのことを言わずに失敗という経験をさせることをしたのは、失敗することで身に付くこともあるという考えからでした。自分はこの話を聞いてとても共感できました。そして、失敗以外の経験も多くできました。大量の野菜を効率的に切る方法を教えてもらったり、限られた材料の中から献立を考えること、何よりも2年次生の講義で行う集団調理を1年次生の時に経験できたことが自分の中で一番大きい経験だと思いました。

今まで自分はボランティアに参加することがほとんどなかったのも貴重な経験になりました。今回の経験を今後の生活に活かしていきたいと思っています。



ボランティアメンバーと一緒に

マリアホール・体育館お別れ会

天使大学生の教育活動の場であった体育館と2号館及びマリアホールが新棟建設のため取り壊されました。

体育館は、運動場としての機能の他に、学生行事・式典、ミサ、講演会、事例研究発表、受験会場としての役割を果たし、2号館及びマリアホールは、同窓会室・葦の会室、看護学科ロッカー室、ゼミ室及び天使大学生の憩いの場や学習の場として役割を果たしました。



体育館

2020年には、1面の記事にありますように新棟が完成し、また新しい天使の学び舎の物語が始まりません。

2018年8月5日（日）、約20年にわたって学生の学習の場・憩いの場・語らいの場であったマリアホールと体育館への感謝の会を開催しました。

感謝の会には卒業生やそのご家族も多数参加いただき、ケン神父様による感謝の祈りや茶話会が行われました。卒業生たちは久しぶりの恩師や友人との再会にしばし学生時代に戻ったようでした。



マリアホール



山部先生と卒業生



参加者全員で記念撮影



お別れ会開式の辞



野原同窓会長、菅原先生と卒業生



ケン神父様と卒業生

つれづれ考

本学教職員による
リレーコラム第12回

「ありがとう、マリホ!!!」の唄

栄養学科教授 山部 秀子

マリホはほんとうはマリアホールっていう。
でもあまり正式名では呼ばれなくて、
みんなマリホって呼んでた。
2号館だってことは、みんな知らないんじゃないかな。
ゼミ室や葦会室は「マリホの上」って呼ばれてた。
ある日突然現れたマリホは、天使のイメージとは
違って、おしゃれでかっこよかった。
小さいけど学食もあって、カレーライスがおいしかった。
喫煙所があったころは臭かった。

南側は全部ガラスで、中庭に出れた。
中庭の隅に植えられた低い樹は、いつの間にか
校舎の屋根を超えていた。
マリホは青空が似合った。
マリホは空とつながっていた。
たくさんの学生を見守ってくれていた。
形はなくなったけど、天使生の中にずっと存在してる。
マリホ、長い間ありがとう。

大学院助産研究科(専門職学位課程)

2018年10月1日～10月14日の2週間にわたり、大学院助産研究科助産基礎分野2年次生4名がマダガスカル共和国のアンチラベにある「クリニック・アヴェ・マリア病院」と首都アンタナナリボにあるsoeurs Franciscaines 病院で国際



アヴェ・マリア病院の助産師たちと

助産学実習を行いました。

滞在中は修道院でシスターたちと生活を共にし、マトロンと呼ばれる伝統

的産婆に会うことでマダガスカルでの伝統的な出産の様子について学びました。また、初めて低出生体重児のカンガルーケアを自分たちで体験し、言葉の理解は不十分でも一生懸命コミュニケーションを図ることで気持ちが通じ合える喜びを感じ、事前学習だけでは得ることのできない貴重な体験をたくさんすることができました。



2週間お世話になった修道院のシスターたちと



1500gの未熟児のカンガルーケア体験

大学院看護栄養学研究科看護学専攻保健師コース

大学院保健師コース1年次生6名は、公衆衛生看護原論の授業の一環として、2018年6月、利尻島で現地学習を行いました。離島に暮らす高齢者や子育て世代の住民、関係者へのインタビューを通じて、離島での生活や生きるということを考え、それを支える保健師の活動を学び、公衆衛生看護の原点を考える機会となりました。



学内での活動報告会

1年次後期には、家族看護継続実習で4回の家庭訪問を行います。訪問のたびに、赤ちゃんの成長発達に喜びを感じながら、家族への支援を考えることができました。



母子訪問の学内実習

また、公衆衛生看護活動論では、高齢者サロンや子育て広場などに参加し、直接、住民の声を聞くなど地域の現状を把握し、学内で報告し、保健師が果たす役割についてディスカッションしました。



利尻町保健師活動の現地講義の様子

看護学科

2018年12月20日(木)に看護学科1年次生が「基礎看護技術論II」の学内演習で「洗髪」の技術演習を行いました。

この演習は、看護の対象となる方が疾患や障害で自分できない場合に行う援助です。

最初に講義で洗髪の援助に必要な知識を学修し、次に事例を設定してどのようにして行うことが必要かを考え、実施します。



洗面台を使用した洗髪の指導

その後、演習ではどうだったか振り返りを行い、自分の課題を明確にして、練習をしていきます。

6人前後のグループに指導教員が1人つき、同級生を患者に見立て、緊張した面持ちで演習を行いました。



学生同士での洗髪練習



ベッドサイドでの洗髪の指導

栄養学科

2018年10月5日(金)から12月14日(金)まで

栄養学科2年次生「給食経営管理論実習I」で大量調理

実習を行いました。この実習は

80食から120

食の大量の食数を自分達で企画運営し、学生や教職員を対象

に、実際の昼食として提供しました。



管理栄養士役の学生が喫食学生に感想を聴きます。



教職員への配膳



実習食堂入り口付近の掲示や見本も学生が作成します。

臨地実習で学ぶ

学生達は、大学で講義を受け理論をしっかりと学んだ後に、学内の実習施設で技術を磨き、学外実習（臨地実習）で実際の現場を学びます。

ここでは、学生達に学外実習で感じたことを聴いてみました。

実際の現場を学び、学修が深まりました。



栄養学科3年

相馬 彩花

私は5日間の福祉施設での実習と10日間の病院実習に行き、食を通して入居者や患者を支えていく管理栄養士という職種の素晴らしさに改めて気がつくことができました。

施設では、主に厨房での調理実習をしました。2年次生での給食経営管理論実習の経験から、大量の食材を調理することに関しては問題なく実習を行うことができました。対象者が高齢者であつたため、食べやすい大きさに食材を切ることや、食形態が異なっても常食に近い見た目を提供するなど様々な調理の工夫がされていることを知り、対象者に合わせた食事を提供することは重要であると感じました。

また、自主課題として行った口頭アンケートでは、実際に入居者にア

ンケートを取ると会話の自然な流れで聞き取りをすることの難しさや、認知症のある方との接し方などについて知ることができました。

病院では、病院管理栄養士の業務について学びました。学内での臨床栄養学や臨床栄養学実習で栄養管理計画書の記入や症例検討を行ったため、栄養管理計画書を作成する際の要点などは理解していましたが、実際は膨大な量の情報から必要な情報を選択しなければならぬため大変でした。また、様々な職種の方から管理栄養士との連携について講義をしていただきました。講義から、病院管理栄養士は多職種の業務内容を理解することでより適切な栄養ケアができるため、様々な視点から物事を考える力を身に付ける必要があると感じました。

臨地実習後、個人に合った栄養ケア計画を考える力を得たことによって、学内の授業の理解がさらに深まったと感じます。臨地実習の経験を活かし、残り少ない学生生活では日々勉強に励みたいと思います。

援助という関わりをとおして看護観について考えました。



看護学科2年

大滝 英里香

私が基礎看護学臨地実習IIで受け持たせていただいた患者さんは、疾患により下肢に麻痺がある全盲の女性でした。車椅子に乗ってトイレに行けるようになりたい、車椅子で家に帰りたいという希望はありましたが、女性の援助では背中が痛いとの訴えがあつたため看護師による車椅子移乗の援助は行っており、男性理学療法士の援助によりリハビリに向かう時だけ車椅子に乗っていま

した。

実習2日目に車椅子移乗に用いるスライディングボードが病院に届き、そのボードを用いて実習3日目から最終日まで、私が移乗の援助をさせていただきました。病院のベッドを貸していただいて、看護師や教員、実習メンバーと移乗の練習をし、背中が痛いとの訴えがあつた時は看

護師や医師、理学療法士からの助言を受け、大学に戻ってから実習メンバーと目をつぶった状態で練習をしてどうすれば良いか話し合いました。最初は練習してきたことを説明し援助をしてもいいか伺うと渋々といった風に頷き、援助の最中もこわばった表情をしていた患者さんが、最後には「本当に痛くなかったよ」と嬉しそうに言うてくださったことが何よりも嬉しかったことを覚えています。

実習を始める前まで私の看護観は、その人のために何かをすること、と漠然としていましたが、実習を終えて、その人の希望を叶えるためにできる範囲内で最大限のサポートをすることが看護なのではないかと考えるようになりました。また、看護はその人の希望を阻害するものであつてはならないとも強く感じました。天使女子短期大学を卒業し、現在も看護師として働く母や家族、友人、先生方に支えられながら、「勉強は大変だろうけど、いい看護師さんになってね」と手を握って暖かく言うてくださった患者さんの言葉を胸に、看護師を目指していきたいと思いま

天使大学 大学院について

天使大学は、「愛をとおして真理へ」の建学の精神のもと、看護学・栄養学の各専門分野における高度な専門職業人、教育や専門分野のリーダーとなる人材を育成するため、次の大学院を設置しています。

また、2018年度に新たにコースが増えましたので、併せてご紹介いたします。

看護栄養学研究科

栄養管理学専攻（博士前期課程、博士後期課程）

看護学専攻 高度実践看護師コース ホスピス緩和ケア看護学コース（がん看護専門看護師）

老年看護 CNS コース（老人看護専門看護師）※2019年度開設

公衆衛生看護学、精神看護学、成人看護学

老年看護学、母性看護学、小児看護学

実践型コース 保健師（保健師養成）

助産研究科助産専攻専門職学位課程 助産基礎分野（助産師養成）、助産教育分野

※看護学専攻に博士課程設置準備中

あなたの声をお聞かせください

天使大学報「天使」では、読者のみなさまの声を生かした誌面づくりを目指しています。ご意見、ご感想、取り上げてほしい話題等ございましたら、下記あて先までお寄せください。

あて先 〒065-0013 北海道札幌市東区北13条東3丁目1-30 天使大学広報委員会 tel 011-741-1051 fax 011-741-1077



天使大学

看護栄養学部／看護学科・栄養学科
大学院／看護栄養学研究科
助産研究科（専門職学位課程）

第26号 2019年3月1日 発行 天使大学広報委員会

<http://www.tenshi.ac.jp>